

消防くん for Windows

Version 4

操作マニュアル

(導入・概要)

【消防くん for Windows】動作環境

クライアント（報告書作成・様式編集・労務計画）			
対応 OS	メモリ	CPU	ハードディスク
8	1GB 以上	1GHz 以上	300MB 以上の空き
10	2GB 以上	1GHz 以上	
CD-ROM	インストール時に必要		
イメージスキャナ	印刷物を利用してフォーム（様式）を新規に作成する場合に必要な様式編集から直接取り込む場合は OS 上に TWAIN ドライバ [®] がセットアップ [®] されている必要があります。		
プリンタ	OS 上で動作可能なプリンタ（レーザープリンタ、複合機推奨）		
ディスプレイ	1024×768 以上、24 ビット表示可能なディスプレイ及びディスプレイアダプタ		
データベースサーバー			
対応 OS	メモリ	CPU	ハードディスク
8	1GB 以上	1GHz 以上	2GB 以上の空き
10	2GB 以上	1GHz 以上	
Server 2012	1GB 以上 (2GB 以上推奨)	2GHz 以上	
Server 2016	1GB 以上 (2GB 以上推奨)	2GHz 以上	
Server 2019	1GB 以上 (2GB 以上推奨)	2GHz 以上	
CD-ROM	インストール時に必要		

対応 OS については全て Windows になります。

【Windows】は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
また、本書中に記載されている会社名、および製品名などは、各社の商標または登録商標です。

目次

【消防くん for Windows】の使い方.....	4
1 【消防くん for Windows】の概要.....	4
1 【消防くん for Windows】の構成.....	4
1.1 データベースサーバー (PostgreSQL)	5
1.2 データベース管理ツール	5
1.3 報告書作成	5
1.4 様式編集.....	5
2 【消防くん for Windows】(Version 4)導入方法.....	6
1 データベースサーバー(PostgreSQL)のインストール.....	6
2 データベースサーバー(PostgreSQL)のアクセス範囲の設定.....	8
3 データベース管理ツールのインストール.....	10
4 データベースの作成.....	10
5 ユーザー (利用者) の登録.....	12
6 クライアント (報告書作成・様式編集) のインストール.....	13
6.1 新規にVersion4をインストールの場合.....	13
6.2 アップデートを行う場合.....	15
7 消防用外字の設定方法.....	15
3 データベース管理ツール (メンテナンス機能)	17
1.1 「消防くんデータベース管理ツール」とは.....	17
1.2 PostgreSQLインストールフォルダの設定.....	17
2 消防くんデータベース管理ツールの操作.....	18
2.1 消防くんデータベース管理ツールの起動.....	18
2.2 消防くん用データベースの作成.....	18
2.3 データベースの削除.....	20
2.4 データベースの復元.....	21
2.5 データベースのバックアップ.....	23
2.6 ログイン情報のクリア.....	25
4 自動バックアップの設定方法.....	27
1 バックアップスクリプト「PsqlBackUp5.bat」の確認.....	27
1.1 「データベースバックアップスクリプト」とは.....	27
1.2 「PsqlBackUp5.bat」の確認.....	27
1.3 バッチファイルの起動確認.....	28

2	スケジュール登録.....	29
2.1	タスクスケジューラの追加.....	29
2.2	バックアップデータの復元.....	34

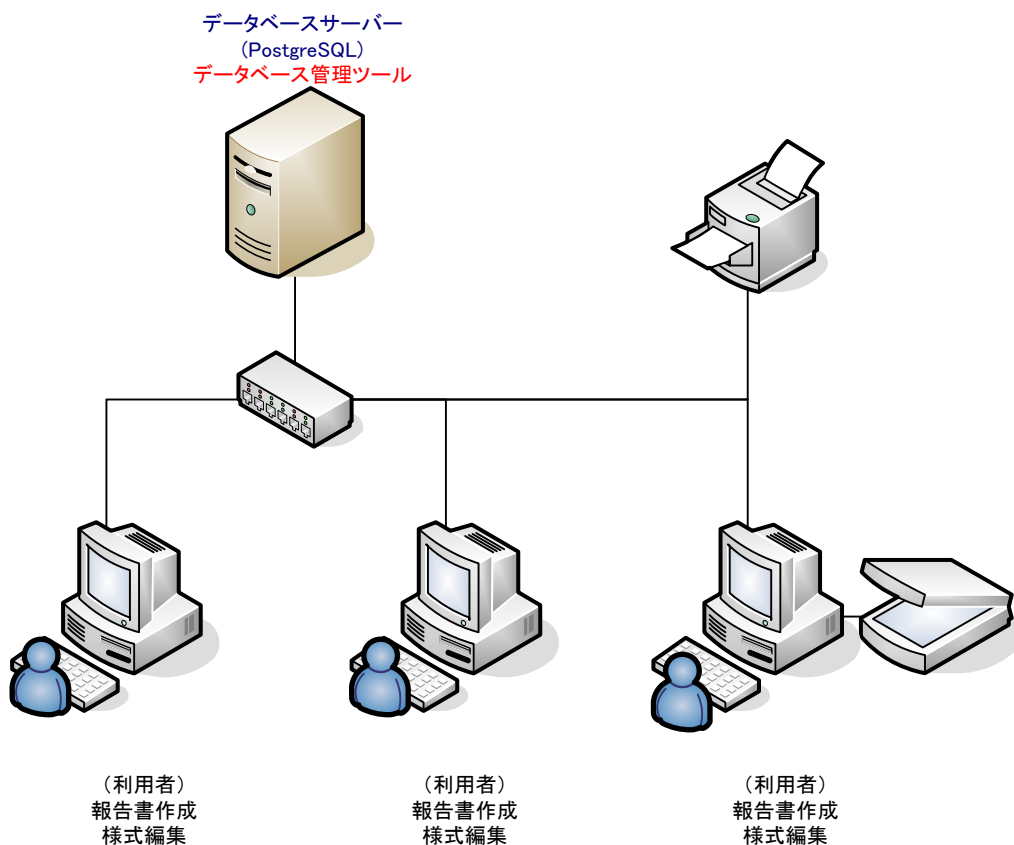
【消防くん for Windows】の使い方

1 【消防くん for Windows】の概要

1 【消防くん for Windows】の構成

【消防くん for Windows】には5つのプログラムがあります。
状況に応じてセットアップを行う項目を選択します。

標準的な構成



1.1 データベースサーバー (PostgreSQL)

PostgreSQL は【消防くん for Windows】が利用するデータベースです。共有データの蓄積先となります。通常は電源を落とすことがなく、操作も行わない機械にインストールを行ってください。サーバー機がなければ、利用者側PCでもインストール及び稼働できます。電源を落としたり、再起動したりする場合は注意する必要があります。(ネットワーク内で1台のみインストールします。)

1.2 データベース管理ツール

データベースの作成、利用者の登録、データベースのバックアップと復元が可能です。データベースサーバー (PostgreSQL) がインストールされている同一機械上にインストールを行ってください。

1.3 報告書作成

物件情報の登録・点検結果報告書や試験結果報告書の作成を行うシステムです。複数台での利用が可能です (同時使用のライセンス数に制限がございます)。インストールについては、(1. 4 様式編集) と同時にインストールされます。

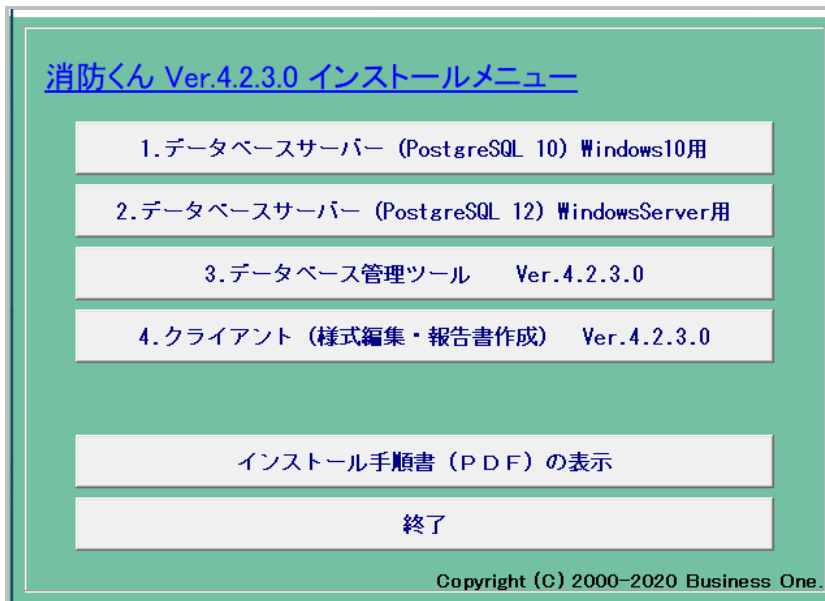
1.4 様式編集

(1. 3 報告書作成) で利用する様式を変更したり、新規の様式 (フォーム) を作成したりします。スキャナを利用して様式を作成することもできます。(1. 3 報告書作成) と同時にセットアップされます。(旧バージョン Version 2.xx / Version 3.xx ではデータを管理する役割がありましたが、Version 4 では報告書作成の操作時に起動する必要はありません。)

2 【消防くん for Windows】(Version 4)導入方法

1 データベースサーバー(PostgreSQL)のインストール

- ① 【消防くん for Windows セットアップ CD】を CD-ROM ドライブに挿入してください。
- ② しばらくすると、以下のインストールメニュー画面が表示されます。

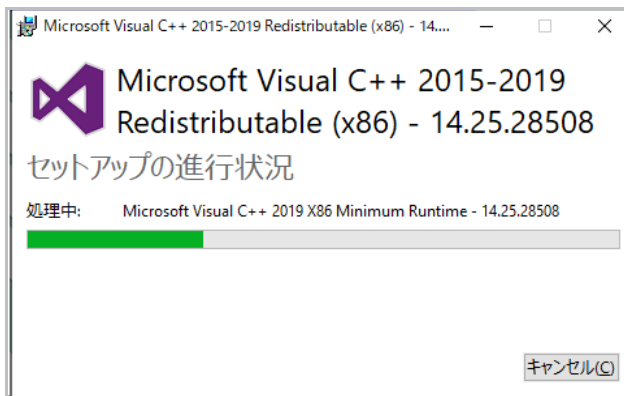


注)上の画面が表示されない場合は【マイコンピュータ】－【CD-ROM】ドライブ【CBOCD. EXE】を順に左でダブルクリックします。

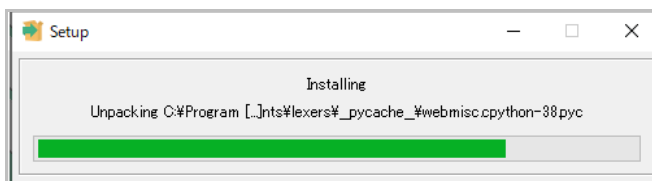
- ③ [1.データベースサーバー (PostgreSQL 10) Windows10 用]または [2.データベースサーバー (PostgreSQL 12) WindowsServer 用] のボタンをクリックします。

(※以降のセットアップ途中に「ユーザーアカウント制御」の画面が表示される場合、「はい」をクリックします。)





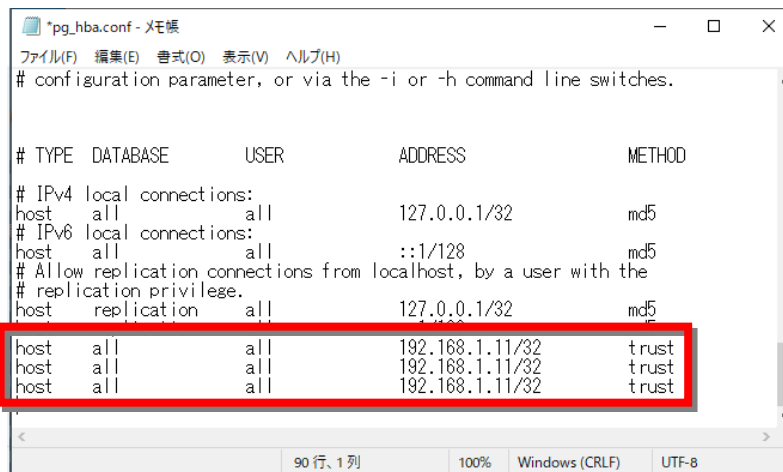
PostgreSQL の動作に必要な [Visual C++ 2015-1019 Redistributable] が自動的にインストールされます。その設定が終わったら、次の画面になります。



この画面が閉じたら PostgreSQL のインストール完了です。

2 データベースサーバー(PostgreSQL)のアクセス範囲の設定

- ① PostgreSQL のインストールが完了したら、アクセス範囲及び通信形式の設定をおこないます。
(サーバー兼クライアントの1台のみの構成で使用する場合は必要ありません。)
- ② 「C:\Program Files (x86)\PostgreSQL\10\data」(※記述は64bit版PCのCドライブへPostgreSQL10をインストールした場合)フォルダの中の「pg_hba.conf」ファイルをメモ帳などのテキストエディタで開きます。
- ③ 接続範囲の追加をします。ファイルの一番下の行に設定を追加します。データ型は「host」、データベースとユーザーについては「all」、方法については「trust」をそれぞれ記述します。
IPアドレス欄には、消防くんを利用するクライアント機のIPアドレスが固定されている場合は、そのIPアドレス/32と記述します。複数の場合はこの①作業を繰り返しおこないます。



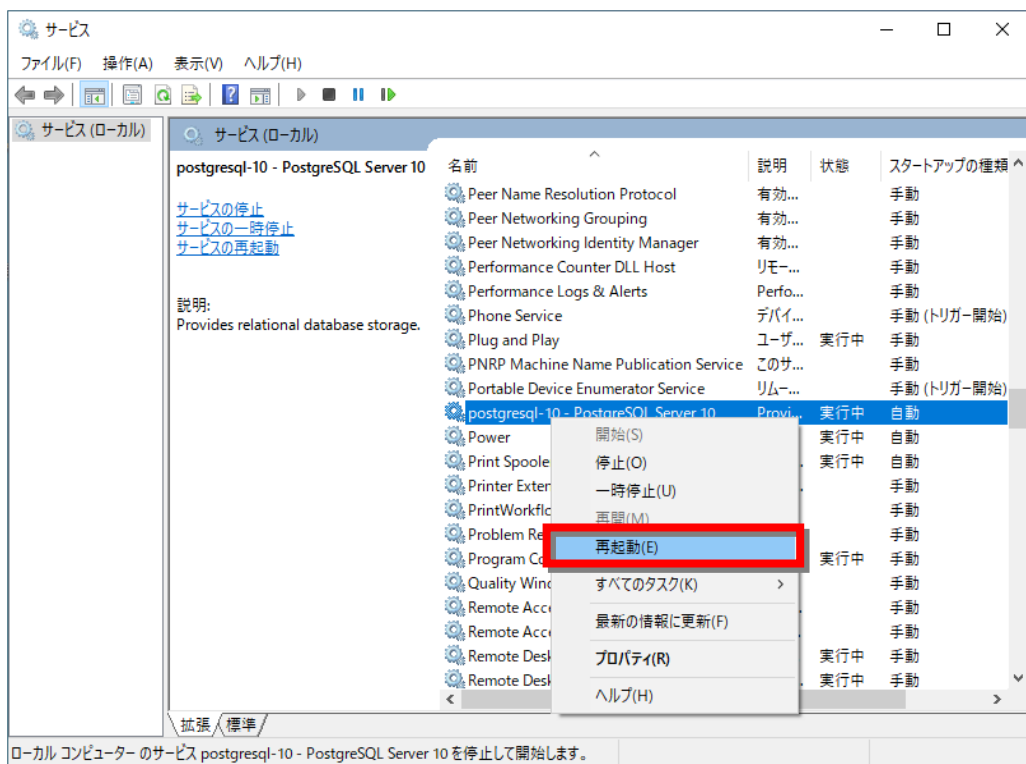
```
*pg_hba.conf - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
# configuration parameter, or via the -i or -h command line switches.

# TYPE DATABASE USER ADDRESS METHOD
# IPv4 local connections:
host all all 127.0.0.1/32 md5
# IPv6 local connections:
host all all ::1/128 md5
# Allow replication connections from localhost, by a user with the
# replication privilege.
host replication all 127.0.0.1/32 md5
host all all 192.168.1.11/32 trust
host all all 192.168.1.11/32 trust
host all all 192.168.1.11/32 trust

90行、1列 100% Windows (CRLF) UTF-8
```

複数を一括設定する場合、IPアドレスが自動割り当ての場合は、共通しているアドレス部分(ネットワークアドレス)を使用して1行で設定を行います。
例: 192.168.0.0/16 や 192.168.128.0/24 のように指定します。
不明な場合は、ネットワーク管理者へご確認ください。

- ④ 「pg_hba.conf」 ファイルを保存して閉じます。
- ⑤ 稼働中の“データベースサーバー”に対して、これまでの設定を反映させるためにサービスの再起動をします。「スタート」ボタン→「Windows 管理ツール」→「サービス」でサービスの一覧を表示します。
- ⑥ 名前「postgresql-10 - PostgreSQL Server 10」を右クリックして「再起動」をクリックします。



- ⑦ 再起動したら「×ボタン」を押して「サービス」を閉じます。

3 データベース管理ツールのインストール

- ① インストールメニュー画面を再度表示します。



- ② [3.データベース管理ツール]ボタンをクリックします。
- ③ インストール先を選択し、表示される画面に従ってインストールを行ってください。

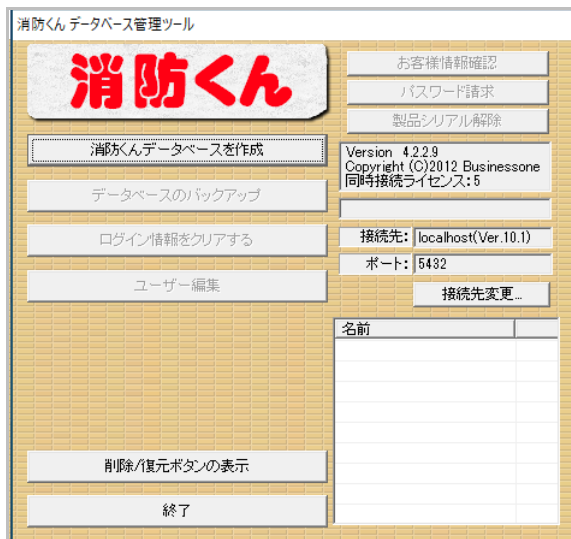
4 データベースの作成

[データベースサーバー]や[データベース管理ツール]のインストールが完了しても、消防くんを起動・使用できる状態ではありません。(共有データの保存先となるデータベースがありません。) そのため「データベース管理ツール」を起動し、データベースの作成と初期データのインストールを行ってください。

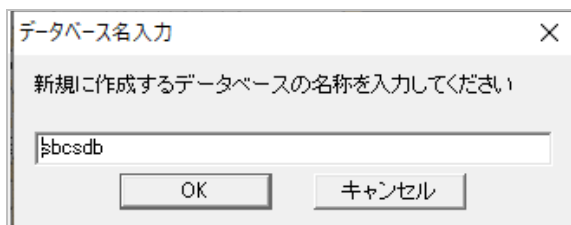
- ① 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「消防くん for Windows」→「データベース管理」を順に選択します。この管理ツールの起動と操作は必ず「管理者権限」で行ってください。

② 管理ツールの初回起動時、「製品シリアル」の登録画面となります。別添の手順書に従って、シリアル番号、メールアドレス、パスワード入力をおこなってください。

③ 管理ツールの画面が表示されます。「消防くんデータベースを作成」ボタンをクリックします。



④ 半角英数のみでデータベース名を入力します。1つ目については標準名の"sbcscdb"が入力されていますので、そのまま作成します。



5 ユーザー（利用者）の登録

- ① 消防くん for Windowsではデータベースへの操作が重複しないように、ユーザー管理を行っています。消防くんを利用される方のすべてを登録してください。（登録ユーザー数に制限はありません。）
※新規作成したデータには予め「ユーザー1」～「ユーザー5」が登録済みです。

- ② 作成されたデータベース名を右の一覧から選択してください。ユーザー選択が表示されます。「管理者」のユーザーを選択してOKボタンを押してください。

ユーザー選択

選択したデータベースで使用するユーザーを選択してください。

データベース: sbcsdb

ユーザー名: ユーザー1(管理者)

パスワード:

OK キャンセル

- ③ 「ユーザー編集」ボタンが押せるようになりますので、クリックします。

ID	ユーザー名	権限	報告書作成	様式編集
1	ユーザー1	管理者	フルアクセス	使用可
2	ユーザー2	管理者	フルアクセス	使用可
3	ユーザー3	管理者	フルアクセス	使用可
4	ユーザー4	管理者	フルアクセス	使用可
5	ユーザー5	管理者	フルアクセス	使用可

追加(A) 変更(C) 削除(D) 社外確認(B) 閉じる(ESC)

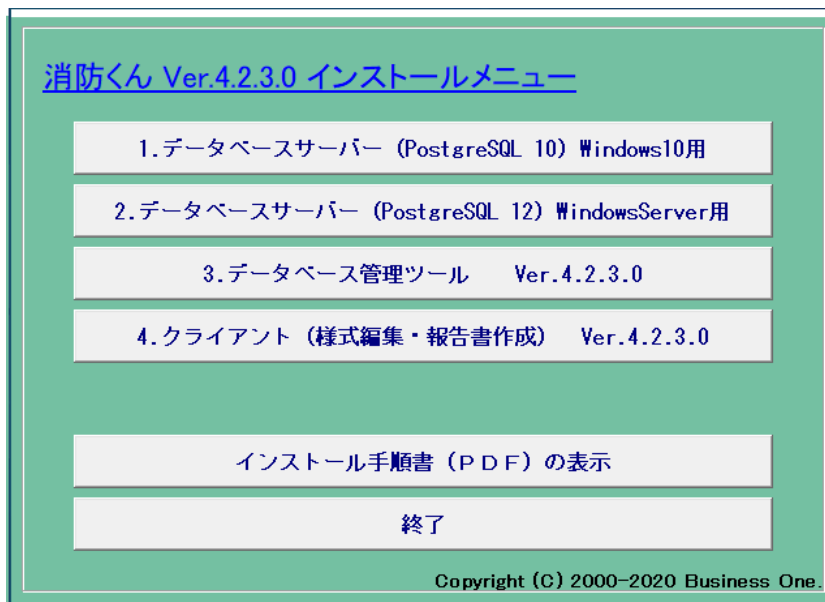
- ・「追加」ボタン…ユーザーを追加します。
- ・「編集」ボタン…ユーザー名・権限等を変更します。
- ・「削除」ボタン…不要なユーザーを削除します。

- ④ 登録が完了したら、「閉じる」ボタンをクリックします。

6 クライアント（報告書作成・様式編集）のインストール

6.1 新規に Version4 をインストールの場合

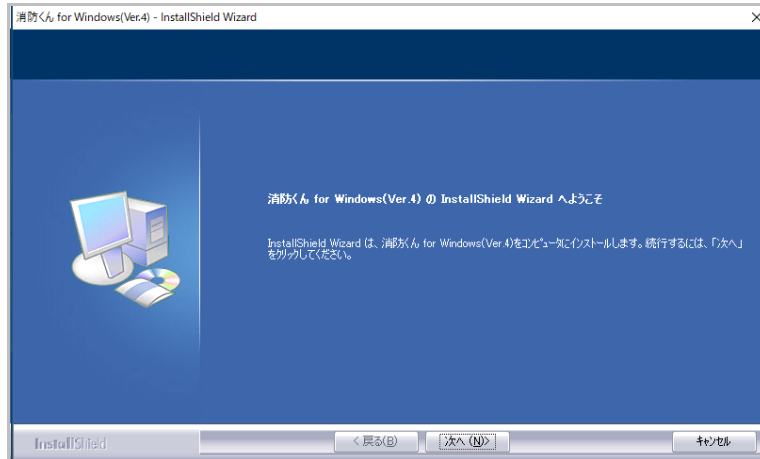
- ① 【消防くん for Windows セットアップ CD】を CD-ROM ドライブに挿入してください。
- ② しばらくすると、以下のインストール項目の選択画面が表示されます。



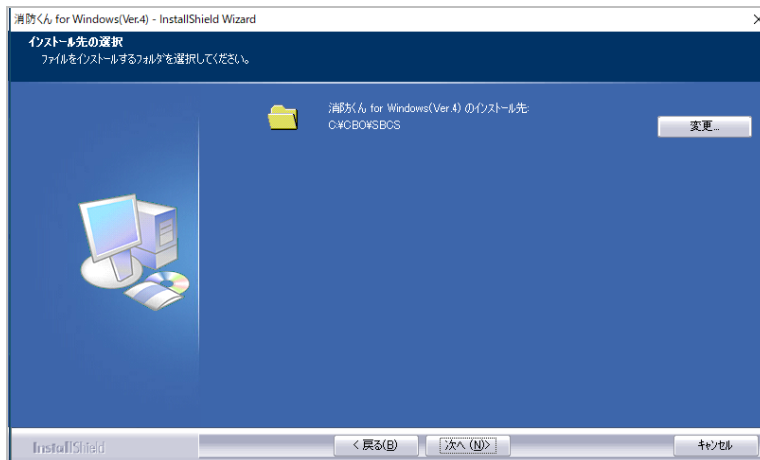
注) 上の画面が表示されない場合は【マイコンピュータ】－【CD-ROM】ドライブ【CBOCD. EXE】を順に左でダブルクリックします。

- ③ 「4.クライアント（様式編集・報告書作成）」ボタンをクリックします。

- ④ 「次へ」 ボタンをクリックします。



- ⑤ インストール先を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑥ 「報告書作成」と「様式編集」の動作に必要なファイルがセットアップされます。

6.2 アップデートを行う場合

セットアップされようとする機械で既に以前のバージョン（Ver4以降）をお使いの場合は、インストール先選択画面は表示されません。アップデート画面の表示が行われます。その場合は、そのまま、アップデートを実行してください。

（※アンインストールの操作は不要です。）

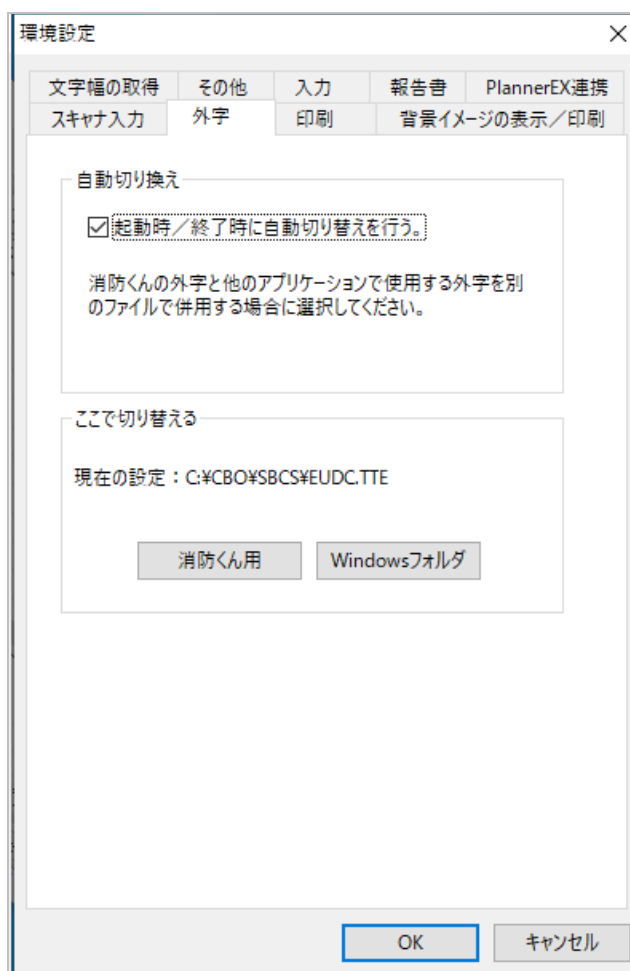
7 消防用外字の設定方法

消防関係の外字を、Windows上で使用・表示できるように設定を行います。「様式編集」または「報告書作成」でのデータ作成の前に、以下の操作を1度行ってください。

- ① **【スタート】** ボタンをクリックします。
- ② **【すべてのプログラム】** の項目をマウスでクリックして、サブメニューを表示します。
- ③ サブメニューから **【消防くん for Windows】** をマウスでクリックします。
- ④ さらに表示される「様式編集」または「報告書作成」を起動します。
- ⑤ 「サーバーへの接続」画面で「キャンセル」を行います。



- ⑥ 「ヘルプ」メニューの「環境設定」をクリックします。
- ⑦ 「外字」タブをクリックし、ここで切り替える枠内の「消防くん用」のボタンを1度クリックします。



- ⑧ 開かれている画面をとじます。

3 データベース管理ツール(メンテナンス機能)

1.1 「消防くんデータベース管理ツール」とは

消防くんで使用される PostgreSQL データベースを管理する為のシステムになります。利用者の登録や、データベースの退避・復元を行うことができます。

1.2 PostgreSQL インストールフォルダの設定

設定ファイル (SBDBMainte.ini) について利用される環境に合わせて記述内容を変更します。初回起動時には自動設定されますので、通常は変更する必要はありません。

設定ファイルを Windows 機能のメモ帳などテキストエディタで開き、以下の記述内容を環境に合わせて確認・変更します。

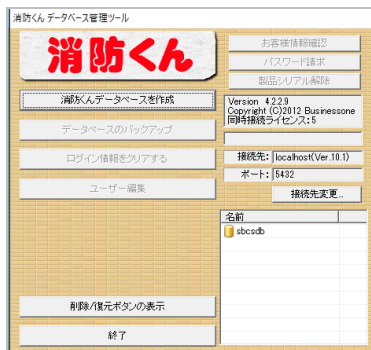
```
[SBDBMainte]
DBPath=C:\Program Files (x86)\PostgreSQL\10\bin
※記述は 64bit 版 PC の C ドライブへ PostgreSQL10 をインストールした場合
```

(この設定ファイルは、データベース管理ツールのインストール先にございます。通常は「C ドライブ」内の「CBO フォルダ」の「SBDBMente フォルダ」となっております。)

2 消防くんデータベース管理ツールの操作

2.1 消防くんデータベース管理ツールの起動

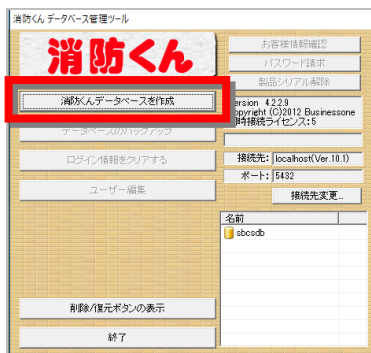
「スタート」-「消防くん for Windows」-「データベース管理」を選択します。
以下の画面が表示されます。



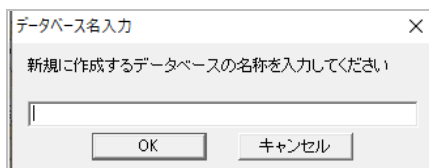
2.2 消防くん用データベースの作成

消防くん用データベースを新規に作成する方法を説明します。新規に導入された場合やバックアップファイルからの復元を行う場合に、データベースの作成を行う必要があります。

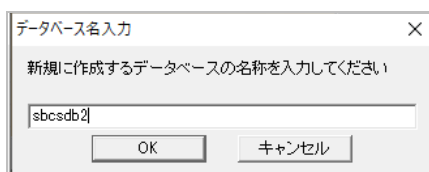
- ① ボタン「消防くんデータベースを作成」を押下して下さい。



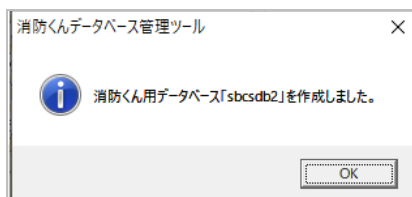
- ② データベース名入力ダイアログが表示されます。



- ③ データベース名にはアルファベット、数字を使用し、同じ名前のデータベースが存在しないことを確認し、「OK」ボタンを押して下さい。



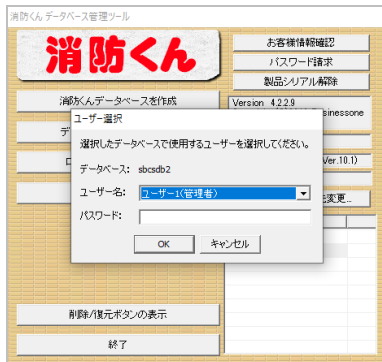
- ④ データベースが作成されると以下のメッセージが表示されます。「OK」ボタンを押下して下さい。



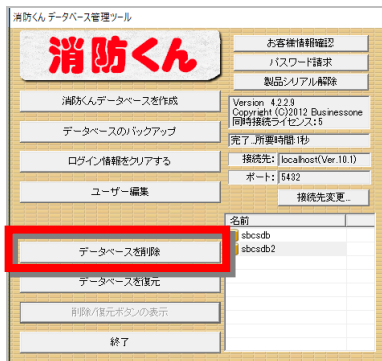
2.3 データベースの削除

消防くん用データベースを削除する方法を説明します。削除したデータベースを元に戻すことはできません。確実に不要なデータベース以外は削除しないで下さい。

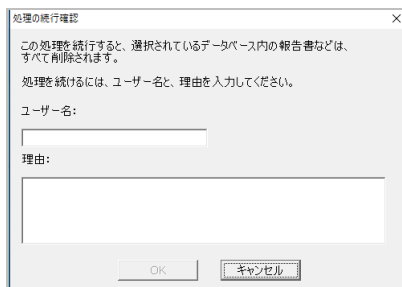
- ① 削除するデータベースをリストの中から選択し、「管理者」のユーザーを選択してください。



- ② 「削除/復元ボタンの表示」を押すと「データベースを削除」ボタンが押せるようになります。「データベースを削除」をクリックしてください。



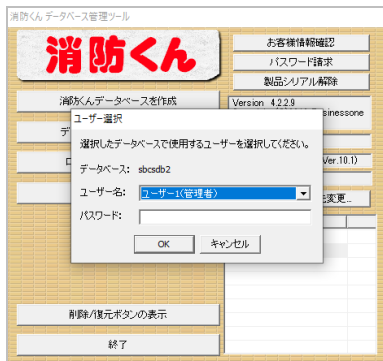
- ③ 確認画面が表示されます。ユーザー名と理由を入力して、「OK」ボタンを押して下さい。データベースが削除されます。



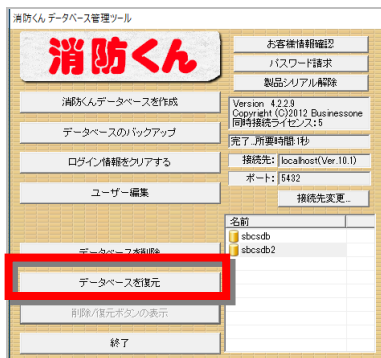
2.4 データベースの復元

ここではデータベースの復元の手順を説明します。

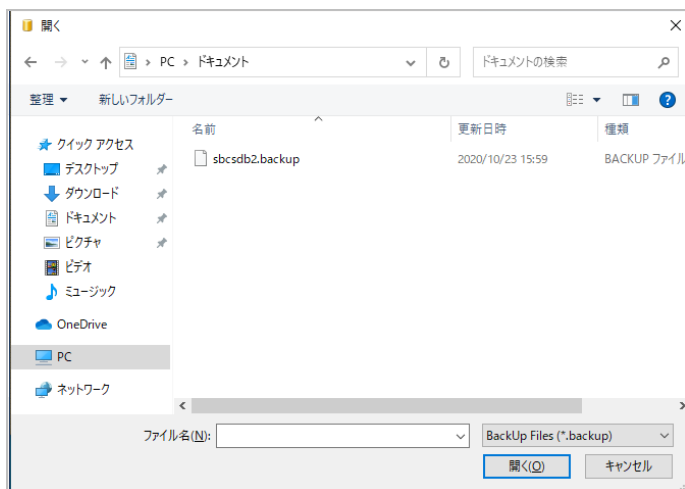
- ① 復元を行う対象のデータベースをリストより選択し、「管理者」のユーザーを選択してください。



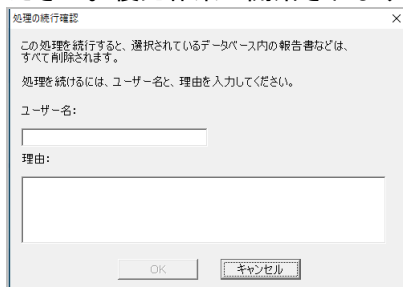
- ② 「削除/復元ボタンの表示」を押すと「データベースを復元」ボタンが押せるようになります。「データベースを復元」をクリックしてください。



- ③ ファイルダイアログが表示されます。バックアップファイルを選択し、「開く」ボタンを押して下さい。

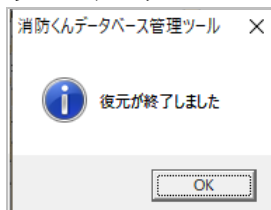


- ④ 確認画面が表示されます。ユーザー名と理由を入力して「OK」ボタンを押してください。復元作業が開始されます。



- ⑤ 復元作業実行中は終了以外のボタンが無効になります。復元作業はバックアップファイルのサイズによりますが 5~10 分程度かかりません。

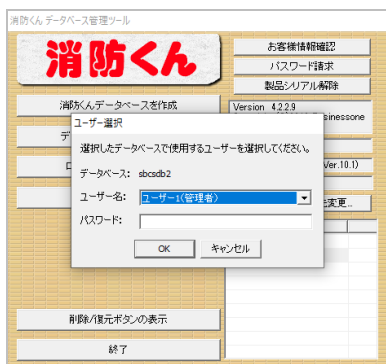
- ⑥ 以上でデータベースの復元は完了です。



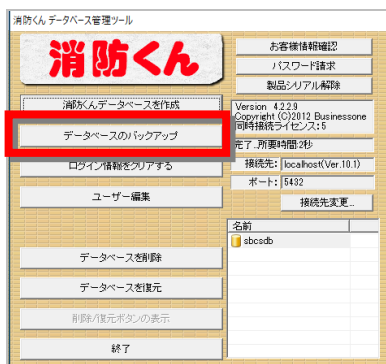
2.5 データベースのバックアップ

ここではデータベースのバックアップの手順を説明します。データベースのバックアップを作製して多くことで、バックアップ作製時点のデータベースが復元できます。

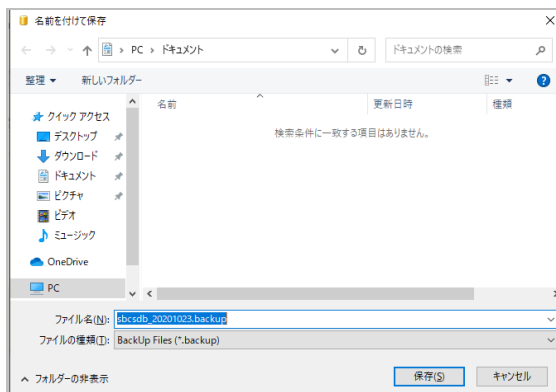
- ① バックアップを行うデータベースをリストの中から選択し、「管理者」のユーザーを選択してください。



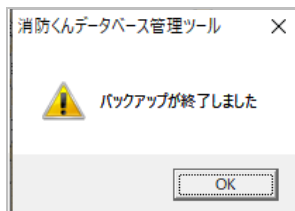
- ② 「データベースのバックアップ」ボタンを押して下さい。



- ③ ファイルダイアログが表示されます。バックアップファイルの保存場所を選択し、保存するファイル名を入力して、「保存」ボタンを押して下さい。



- ④ 以上でデータベースのバックアップは完了です。「OK」ボタンを押して下さい。

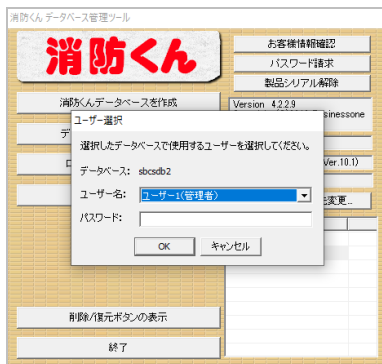


2.6 ログイン情報のクリア

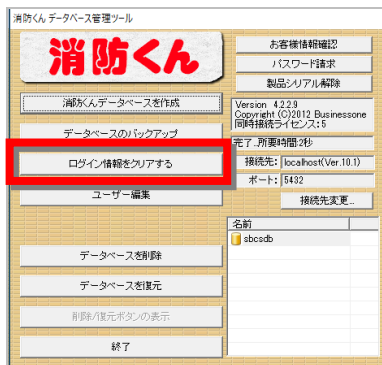
消防くんデータベースにクライアント側（報告書作成・様式編集・労務計画）ソフトでログイン後に、正常終了していない場合、そのユーザーについては再ログインできません。

選択中のデータベースの全ユーザーのログイン情報を消去し、再度ログインできる状態に戻します。

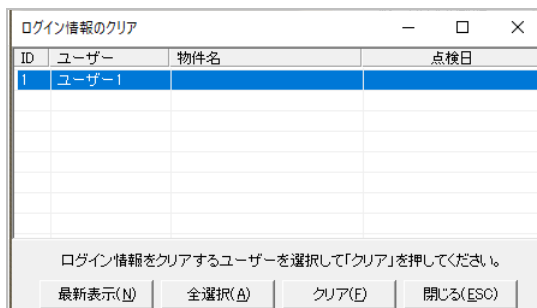
- ① ログイン情報をクリアするデータベースをリストの中から選択し、「管理者」のユーザーを選択してください。



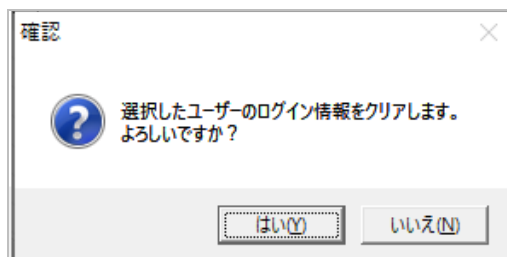
- ② 「ログイン情報をクリアする」ボタンを押してください。



- ③ クリアするユーザーを選択して「クリア」ボタンを押してください。



- ④ 確認画面が表示されます。「はい」を押すとログイン情報をクリアします。



4 自動バックアップの設定方法

1 バックアップスクリプト「PsqlBackUp5.bat」の確認

1.1 「データベースバックアップスクリプト」とは

消防くんで使用される PostgreSQL データベースをバックアップするコマンドを記述した、ファイルになります。このファイルを「Microsoft Windows タスクスケジューラ」へ設定することで定期的な決まった時間にバックアップを行う事が出来ます。(以下バッチファイルと記述)

1.2 「PsqlBackUp5.bat」の確認

バッチファイル(PsqlBackUp5.bat)について利用される環境に合わせて記述内容を変更します。(このバッチファイルは、データベース管理ツールのインストール先にあります。通常は「C ドライブ」内の「CBO フォルダ」の「SBDBMente フォルダ」となっております。)

① PostgreSQL インストールフォルダの設定

バッチファイルを Windows 機能のメモ帳などテキストエディタで開き(バッチファイルを右クリックし、「編集」を選択します。)、以下の記述内容を環境に合わせて変更します。(バッチファイル:12行目)、

```
SET PSQLDIR="C:¥Program Files (x86)¥PostgreSQL¥10¥bin"  
※記述は 64bit 版 PC の C ドライブへ PostgreSQL をインストールした場合
```

② バックアップフォルダの設定

(予め、最もディスクの空き容量があるドライブにバックアップファイル用のフォルダを作成しておいてください)

実際にバックアップファイルが格納されるフォルダパスを指定します。(バッチファイル:15行目)

```
SET BACKUPDIR="C:¥CBO¥消防くんデータバックアップ"  
※記述は C ドライブの CBO フォルダの中に[消防くんデータバックアップ]  
フォルダを作成している場合
```

③ データベース名の設定

標準とは異なる名称でデータベース名を作成していた場合、そのデータベース名を指定します。

```
rem バックアップデータベース名
SET BACKUPDBNAME="sbcsdb"
```

④ 削除期間の設定

バックアップファイルは設定によってディスク容量を圧迫する為、バックアップを行ったタイミングで古いファイルを削除する日を指定します。(バッチファイル:48 行目)

```
forfiles /p %BACKUPDIR% /D -30 /m 2??????.backup /c "cmd /C del @file"
※赤字で記述される数値を変更します。
```

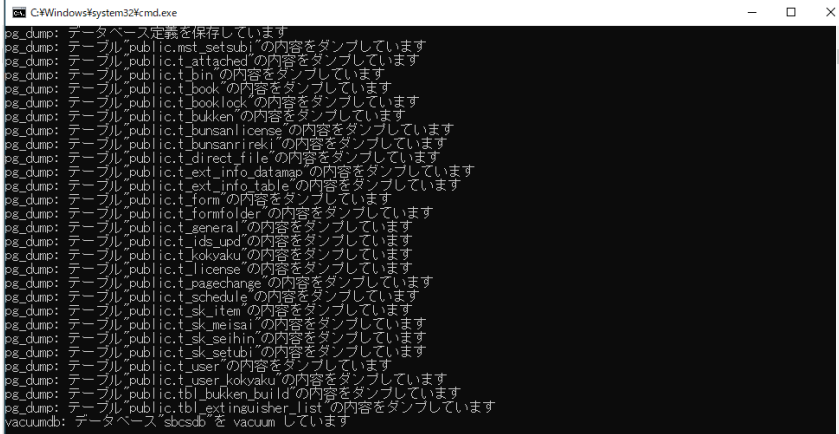
30を指定した場合、現在日付より30日以上古いデータが削除されます。

1.3 バッチファイルの起動確認

サーバー構成の設定まで行った状態で1度正常に実行されるか起動します。

「PsqlBackUp5.bat」ファイルをエクスプローラよりダブルクリックします。

実行されますと以下の画面が表示されます。



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
pg_dump: データベース定義を保存しています
pg_dump: テーブル public.mst_setsubi の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_attached の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_bin の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_book の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_booklock の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_bukken の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_bunsanlicense の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_bunsanrireki の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_direct_file の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_ext_info_datamsg の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_ext_info_table の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_form の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_formfolder の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_general の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_ids_upd の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_kokuyaku の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_license の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_pasechange の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_schedule の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_sk_item の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_sk_meisai の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_sk_sethin の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.t_user の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.tbl_bukken_build の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル public.tbl_extinguisher_list の内容をダンプしています
vacuumdb: データベース 'sbcsdb' を vacuum しています
```

正常に動作しますとバックアップが動作し、テーブルバックアップ結果が表示されます。

※動作していない場合、パスワード入力待ちとなる、画面が数秒で閉じる等、バックアップ処理が実行されませんので、必ず動作するか確認してください。

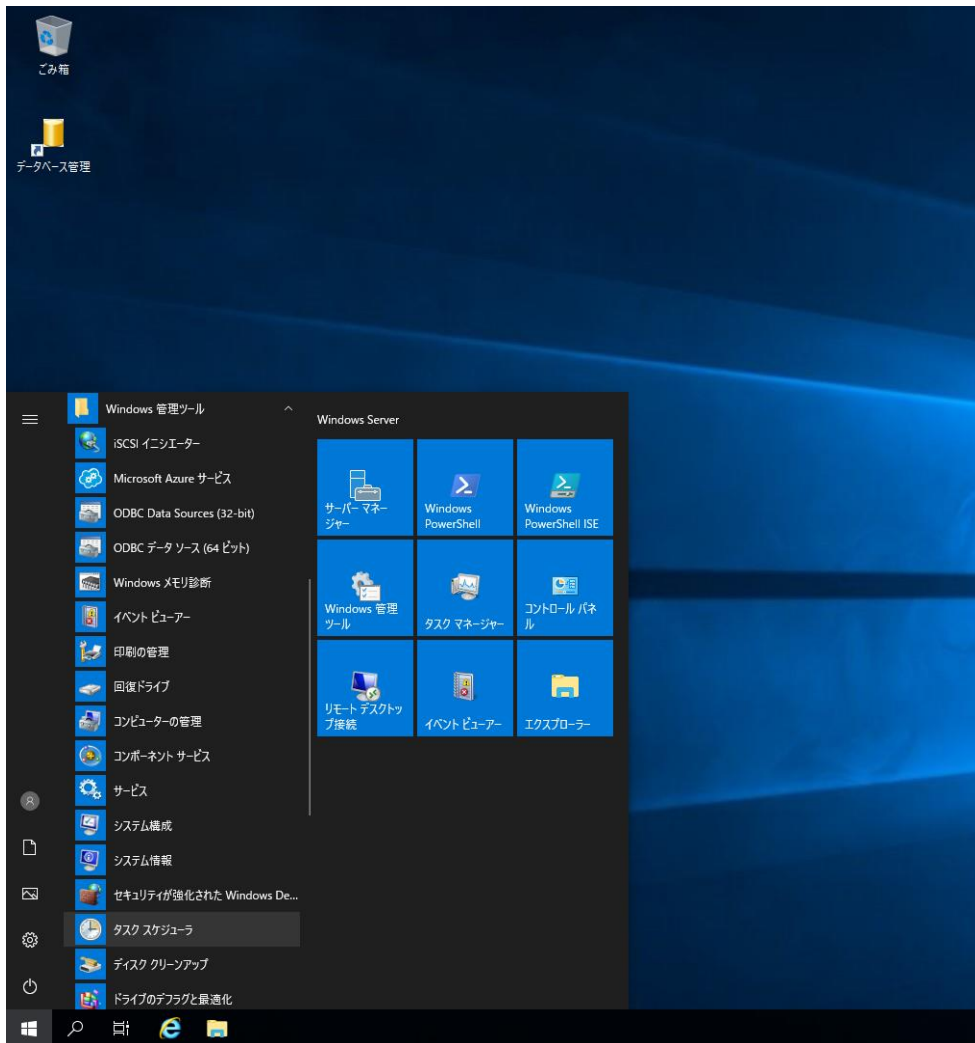
2 スケジュール登録

2.1 タスクスケジューラの追加

自動バックアップを行う Microsoft Windows タスクスケジューラ (記載内容は WindowsServer2019)の追加方法について説明します。

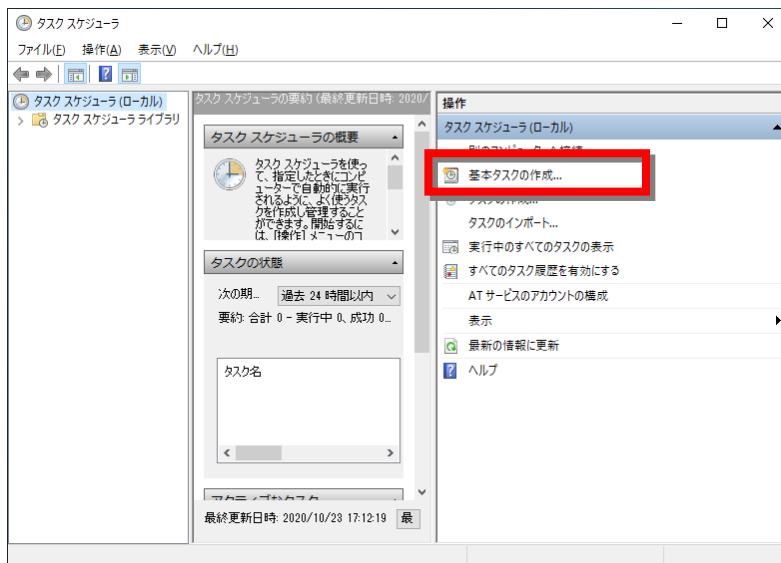
① タスクスケジューラの起動

「スタート」→「Windows 管理ツール」→「タスクスケジューラ」を実行します。



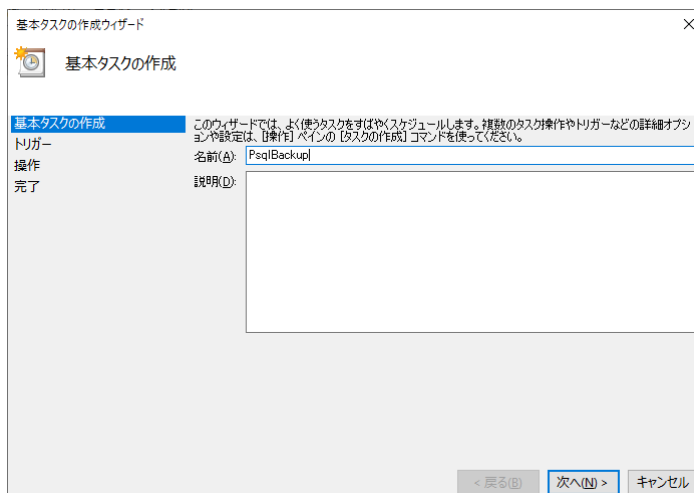
② 基本タスクの作成

実行されますと以下の画面が表示されますので「基本タスクの作成」を押下します。



③ タスク名称の指定

実行するタスク名称を設定し、「次へ」ボタンを押下します。



④ 実行時間、実行間隔の指定

自動バックアップを行う時間、実行する間隔を指定し、「次へ」ボタンを押下します。

実行時間についてはデータ量によりますが、10分～20分程度の見込みです。

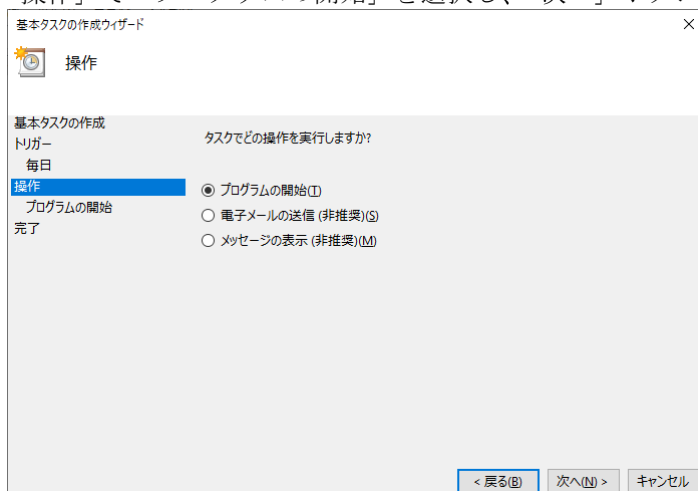
※バックアップ実行時間帯は、システムへアクセスされない業務時間外を設定するようにお願い致します。

The screenshot shows the 'Basic Task Creation Wizard' dialog box, titled '基本タスクの作成ウィザード'. The current step is 'タスクトリガー' (Task Trigger). Under '基本タスクの作成' (Basic Task Creation), the 'トリガー' (Trigger) option is selected. The 'いつタスクを開始しますか?' (When do you want to start the task?) section has several radio button options: '毎日(D)' (Daily) is selected, followed by '毎週(W)' (Weekly), '毎月(M)' (Monthly), '1回限り(O)' (One-time), 'コンピューターの起動時(H)' (At computer startup), 'ログオン時(L)' (At logon), and '特定イベントのログへの記録時(E)' (At recording to a specific event log). Navigation buttons at the bottom are '< 戻る(B)' (Back), '次へ(F) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

The screenshot shows the 'Basic Task Creation Wizard' dialog box, titled '基本タスクの作成ウィザード'. The current step is '毎日' (Daily). Under '基本タスクの作成' (Basic Task Creation), the 'トリガー' (Trigger) option is selected. The '開始(S):' (Start) field is set to '2020/11/01' and the '1:00:00' (1:00:00) field is visible. There is a checkbox for 'タイムゾーン間で同期(S)' (Synchronize across time zones). The '間隔(C):' (Interval) field is set to '1' day. Navigation buttons at the bottom are '< 戻る(B)' (Back), '次へ(F) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

⑤ 操作の指定

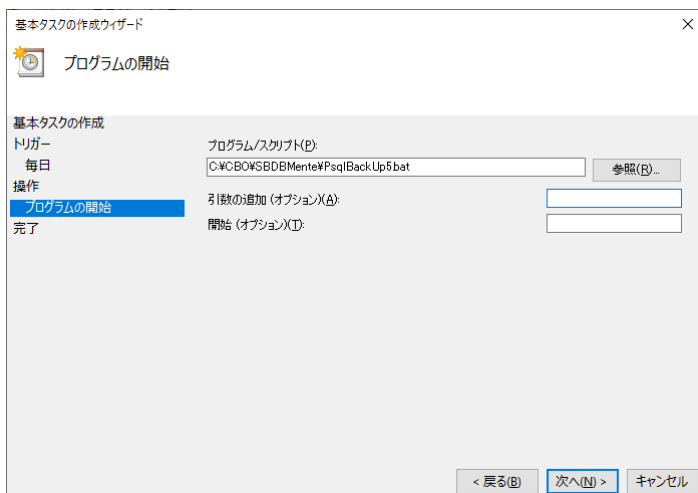
「操作」で「プログラムの開始」を選択し、「次へ」ボタンを押下します。



⑥ 実行プログラムの指定

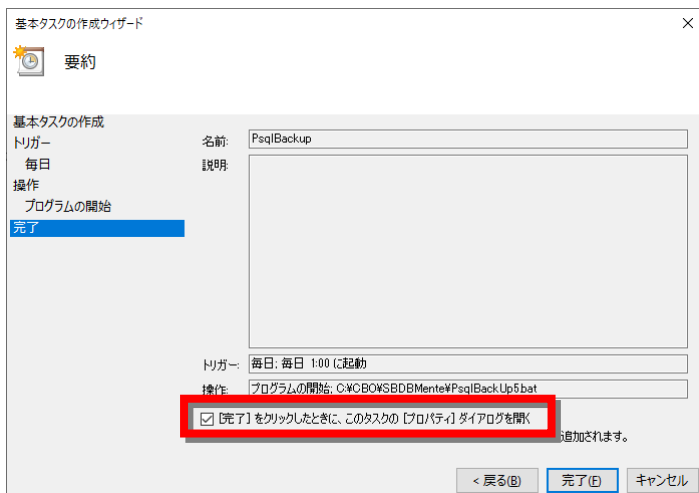
「参照」ボタンを押下し、ファイル参照ダイアログを表示します。

バックアップを行うスクリプト「[PsqlBackUp5.bat](#)」を選択し、「次へ」ボタンを押下します。



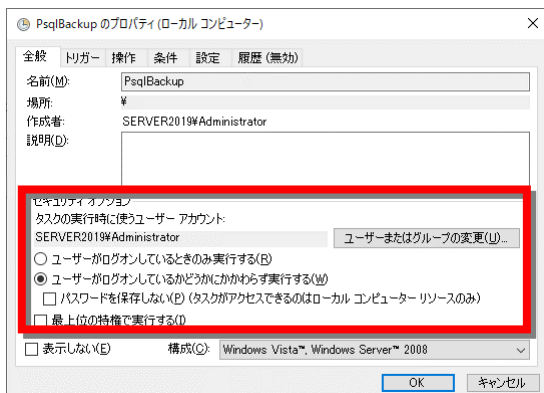
⑦ 設定の完了

「[完了]をクリックしたときに、このタスクの[プロパティ]ダイアログを開く」にチェックを入れて「完了」ボタンを押下してください。



⑧ 実行ユーザーの指定

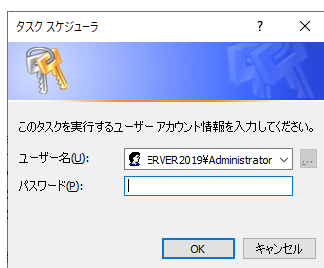
Server をログオフした状態でも自動バックアップが行われるように、ログインユーザー、パスワードを指定します。



「タスクの実行時に使うユーザーアカウント」を選択します。

※こちらは管理者のユーザー／パスワードを指定します。

「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」を選択して「OK」ボタンを押下します。



パスワードの入力を求められるので、入力して「OK」ボタンを押下します。

2.2 バックアップデータの復元

「消防くん データベース管理ツール」より、復元が可能です。